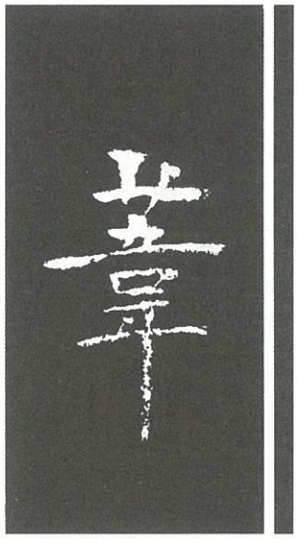


— 第65号 —

〒214-8565
川崎市多摩区西生田1-1-1
日本女子大学教育学科の会
電話 044（952）6870（代）
FAX 044（952）6889
ホームページ
http://jwu-gakuen.net/
メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

第二十四回 日女祭（ひめのさい）

十月十八日(土) 十九日(日)
午前十時～午後五時
＊入場は両日共に
午後三時三十分まで
（交通のご案内は8ページに）

ホームカミングデイ・シンポジウムのお知らせ

会長　岩木秀夫

日女祭にあわせ、ホームカミングデイを開催します。新会長就任の挨拶にも書きましたように、日本女子大学は120周年記念を期して平成三十三年度にキャンパス統合を予定しております。人間社会学部は学部一体の目白移転を強く希望しておりますが、そのためにも競争力強化のための諸改革は避けられません。人間社会学部のアイデンティティー、人間社会学部の教育学科のアイデンティティーが再び問われています。そこで今回は教育学科の先輩教員で学部長を経験された牧野暢男先生と片桐芳雄先生をお招きして、「人間社会学部と教育学科」というテーマでお話しを伺うことにしました。

日　時　平成二十六年十月十八日（土）
午後一時三十分～午後三時三十分

場　所　日本女子大学 人間社会学部
A棟二階第一会議室（西生田キャンパス）

テーマ　人間社会学部と教育学科

講　師　牧野暢男（元教育学科教授、教育社会学）
片桐芳雄（元教育学科教授、教育史）

申し込み　準備の都合上、なるべく同封のハガキで十月十日（金）までにお申し込みください。
（申し込みなしでの当日参加も歓迎です。）お菓子とお茶の用意をしております。

牧野先生は文学部教育学科時代から人間社会学部の立ち上げに関わられ、平成十三年四月一日～平成十七年三月三十一日に学部長をお務めになりました。人間社会学部教授会がキャンパス統合を決議したのは平成十八年三月三十一日教授会においてでしたから、牧野先生は学部創設から移転決議直前までの経過に学部長として立ち会われておられます。片桐先生は平成十九年四月一日～平成二十三年三月三十一日に学部長をお務めになりました。平成十八年三月三十一日人間社会学部教授会の移転決議は平成十九年二月九日の4学部連合教授会で否決されますが、平成十九年七月十日の学園総合計画委員会で社会科学系改革を目玉とした人間社会学部再編構想が好感され、人間社会学部の目白移転が原則的に支持されました。その後、諸改革案・拡充案が相次ぐも決定打不在のまま平成二十三年十一月の「Vision120」は創立120周年を期して「人間生活・人文・社会・自然科学系統4学部の教育・研究を目白キャンパスにおいて展開します」と宣言するに至りました。片桐先生はこのキャンパス統合決定に至る滔々たる奔流のなかで学部長をお務めになりました。人間社会学部の西生田新設から目白回帰に至るこの流れの中で学部長として操舵手をされながら、お二人の先生は教育学科の命運をどのようにお感じになっておられたのでしょうか。そこにはきっと、キャンパス統合後の教育学科の在り方を考えるのに貴重な手がかりが隠されていると思われます。また、当日は活発な質疑応答も期待されます。どうぞ奮ってご参加下さい。

提言

被災地から学ぶ「弱さへの感度」

教育学科教授　清水睦美

3・11はすでに遠い記憶という人もいるのではないかと思う。私は、東日本大震災で未曾有の被害を受けた岩手県陸前高田市に、震災前から家族でステイ型キャンプをしに出かけていた関係で、震災後もこの地と深く関わることになった。震災直後から半年ほどは、学校や教師、避難所の子どもたちを中心に、現地のニーズを聞き取りながら、毎週末、支援物資を運ぶ社会活動に参加し、その後も月に1回、聞き取り調査をかねて現地に足を運んでいる。

3・11の津波被害、放射線物質の拡散の始まった3・12に始まる原発事故災害に関心を寄せるみなさんにとっては、震災後3年という時を経てもなかなか復興が進まないことは周知のことであろう。また、原発事故災害にあっては、復興が進まないだけでなく、自分の生まれ故郷に帰ることができない人々が、今現在でも約25万人にのぼることなども知っておられるであろう。

さて、私自身は、3年間、被災地に足を運び続ける中、最近になって特に強く感じるのは、被災地の人々の「弱さへの感度」の高さである。ここでの「弱さ」とは、日常生活を営む上で「うまくいかないこと」「思ったようにならないこと」を指しているのだが、被災地の人々は、そうした様子が他者に見えるときに、弱さを抱える他者に優しいというだけでなく、他者の「弱さ」を捉える感度が高いと感じるのである。言い換えれば、人が抱える「弱さ」を発見しやすく、その「弱さ」に配慮することを常としており、それを意識的に行っているかと言えば、そうでもなく、まるで当然のことのようにことをなしているのである。

聞き取り調査を続ける中でわかったことは、3・11という突然の災害に見舞われた人々は、自身が予期せぬ形で「弱さ」に晒される可能性が常にあることを理解しており、そのような「弱さ」への理解が、他者の弱さを捉える感度を高めているということである。翻って、私が日常を営む首都圏の生活は「弱さ」は個人の責任であり、その克服も個人に委ねられ、超えられないこともまた個人の責任という風潮が強く感じられる社会であることにあらためて気づかされる。「弱さへの感度」の高さは、被災地から学びたいことの一つである。

日本女子大学教育学科の会 会長就任のご挨拶

教育学科教授　岩木秀夫

この度、澤本和子先生の後を受けて教育学科の会の会長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いします。

平成二年度に目白から川崎市多摩区西生田に移転して発足した人間社会学部教育学科は、現在内外の難問に囲まれております。外的難問とは、グローバル化、キャリア教育重点化などのなかで、平成三十年度から教員採用数の減少が始まることです。内的難問とは、学部の平成三十三年度目白統合が本決まりするなかで学科アイデンティティー維持が課題になっていることです。

この難局に教育学科は、田中雅文前学科長、田部俊充現学科長を中心に学科一丸となって取り組んできておりますが、なお学科の会のお知恵をお借りすることが出来れば心強いものがあります。教育学科の会は会報「葦」の発行、「学縁の集い」の実行、学園祭時のホームカミングデイ共催などを通じて、先輩学生と後輩学生の有意義な交流を実現してきました。今年度のホームカミングデイでは学部長経験者お二人をお招きして人間社会学部と教育学科の関わりをお話し頂くなど、今後は先輩教員のお知恵を拝借する場としての充実にも努めたいと考えております。

本会が学部のみならず教員、大学院の諸層で先輩・後輩の交流の場として更なる発展を遂げますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成二十六年度　教育学科の会　大会報告

第五十三回　教育学科の会大会が、五月二十四日（土）西生田キャンパスにおいて行われました。

〈第一部・総会〉

今年の総会は先生方や卒業生だけでなく、多くの学生の参加があり、会長の澤本和子先生の「学生、教員、卒業生からなるこの会の特色を生かして盛り立てていきましょう」というご挨拶で総会が始まりました。

議事に入り、平成二十五年度事業報告、決算報告、役員改選、平成二十六年度事業計画、予算案がいずれも承認されました。（決算書、予算書および新役員については6ページ参照）

平成二十五年度の大会では、総会に続く「学縁の集い」で濱本恵美子さんと秋保惠子さんに講師を務めていただき、後輩に向けたお話を伺いました。十月十九日のホームカミングデイでは岩木秀夫先生と山下絢先生が「女性のリーダーを増やすには？～女性リーダーの再定義と新潮流」と題してお話しくださいました。また、十一月三十日の懇話会には村上美保子さんをお招きし、「今、福島に生きて～朝日館女将が語る、震災、津波、そして紙芝居」という題でお話しいただきました。

紀要「人間研究」は第50号発行を迎えました。会報「葦」は63号、64号が発行されました。教育学科の会ＨＰに「人間研究」の目次と「葦」のバックナンバーを掲載しています。

【報告　副会長　大森桃子（26回生）】

〈第二部・第18回　学縁の集い〉

左から渡邊さん、高橋さん、石橋さん、岩崎さん

今回は卒業生四人の方が講演してくださいました。社会で活躍されている先輩方のお話を伺う機会があまりない私たち学生にとって、非常に有意義なひと時を過ごすことができました。先輩方はエネルギッシュなお話と、貴重なアドバイスをくださりました。

☆高橋　さゆみ氏　（62回生）

高橋さんは株式会社日本保育サービスの企画職に勤められています。主に保育園・学童を運営する企業です。高橋さんの主な仕事は、園の運営サポートと行政とのやり取りだそうです。時には園の新規立ち上げという大きなお仕事も担当されます。実際に園に出向いて視察されたり、園長先生と連携をとったりと、現場によりそったお仕事をされています。現場の声を聞くのは大変ですが、社会貢献性が高く、仕事にやりがいを感じるとおっしゃっていました。

高橋さんから私たち学生へのアドバイスは、大学生は守られていながら自由な時間を過ごせるという恵まれた立場であるので、社会人になって行動範囲・交友範囲・時間に制約がされる前に、学業やサークル等を通して学べることを広げ、今を大切に充実した生活を過ごしてくださいとのことでした。

☆渡邊　波夏氏　（63回生）

渡邊さんは教員二年目で横浜市の小学校に勤められています。現在は5年生の担任をされています。着任二年目にして、様々な重要なお仕事を任されている渡邊さんは忙しくも充実した日々を送っているそうです。そんな渡邊さんが学校で心がけていることはなんでしょうか。それは、毎日児童を褒めに褒めまくること、笑顔でいることだそうです。暖かく居心地のいいクラスを作るためには欠かせないとおっしゃっていました。

他にも、子どもたちの視点に立つ、先輩教員とのコミュニケーションを大切にするといったアドバイスをくださいましたが、特に大切にしていることは『チャレンジ精神』だそうです。『失敗は成功のもと』とあるように、失敗がもとになって新しいことへ挑戦ができる、そして体当たりでいろんなことに挑戦できるのがこの時期でもある！と語ってくださいました。

そんな渡邊さんからのアドバイスは、何事も全力で楽しむことと、支えあえる仲間の存在の大切さでした。充実した楽しい大学生活を！と力強く応援してくださいました。

☆岩崎　希望氏　（63回生）

岩崎さんは埼玉県の小学校教師二年目です。岩崎さんからは教師を務める上での大変なことを教えていただきました。教師はとにかく仕事の量が多く、意外にも児童と関わる以外のお仕事が多いそうです。例えば、児童を指導するための準備や、幼稚園生と小学一年生の連携、学年ごとに異なるカラーにあった指導など、様々なことをこなさなければなりません。そんな忙しい教師生活ですが、時間がなくても授業の準備は頑張るとおっしゃっていました。発問や設問、板書などといった具体的な指導法も教えてくださりました。

岩崎さんは、何度も何度もやってみて挑戦する、まずはいろんなことに挑戦してやってみることでわかるようになってくることがある。と挑戦して試行錯誤することの大切さを教えてくださりました。

岩崎さんが心掛けていることは児童をとにかく褒める事です。みんなの前で褒めたり、家族を通して間接的に褒めたり、同じ褒めるにもいろいろな褒め方があるそうです。

初任の時は毎日が初めてのことばかりでいっぱいだったが、二年目の今は慣れて様々なことが見えてくるようになった、とおっしゃる岩崎さん。そんな岩崎さんからのアドバイスは、教員は健康第一、そして自分の持ち味を大事にすることだそうです。

☆石橋　詩織氏　（63回生）

石橋さんは現在アウトレットで接客のお仕事をされています。石橋さんは大学時代からパワフルでした。入学したときは寮生活をして本大学に通われていましたが、三年生から栃木から三時間半かけて通われていたそうです。通学時間が長いにも関わらず、箏曲クラブに所属し、着物、お箏と充実した生活を送られていました。そんな石橋さんからは、興味を極めるのは時間のある大学生活しかない。初めの一歩が怖いのは当たり前である。やらずに後悔するよりは実行してみてください、と明るい励ましをいただきました。

アナウンサーになる夢を持っていた石橋さんは地元のケーブルテレビに勧められましたが、そちらでのお仕事はアナウンスのみならず、現場での仕事や編集などもこなさなければならず、時間に追われる日々だったそうです。人に伝えたい、人と関わりたい、と願っておられた石橋さんはお仕事をやめ、アウトレットで接客のお仕事をされるようになりました。今は次の目標を探すステップだ、とおっしゃる石橋さんは常に次を目指すパワフルな方でした。

石橋さんからは、大学時代の今だからできることは多い、後悔しないように様々な活動をしてください、とアドバイスをいただきました。

☆参加学生の声☆

（アンケートより一部抜粋）

- 教員の道に進んだ方も、企業の道に進んだ方も、人との関わりや相手の目線で考える事を大切にされていると思いました。教師の道だけに目を向けるのではなくて、様々な世界にアンテナをはって広い視野を持っていきたいと思いました。
- 様々な進路を進まれた方のお話を聞けて良かったです。具体的に話してくださったので、イメージがわきやすく勉強になりました。ありがとうございました！
- 実際に先生になった先輩のお話を聞けてとても参考になりました。
- 今現在働いている方のお話を聞くことはとても貴重なことで、本当に出席できて良かったと思います。学生時代にできることを大切にしていきたいです。
- 社会に出て活躍されている先輩方の貴重なお話が聞けて良かった。自分の将来に活かしていこうと思った。
- 私は小学校教員志望なので、とても勉強になりました。なりたいという気持ちはもちろん、相当な覚悟が必要だと思いました。自分の夢をしっかりと見極めて、これから四年間頑張りたいです。
- 先輩のお話をきけると思っていなかったのでとても参考になりました。始まったばかりの大学生活、たくさん勉強して、たくさん遊んで、充実したものにしたいと思いました。
- 学校の先生として実際に教壇に立っている方の声を直接聞けて良かったです。
- いろんな職業についた方のお話も聞けて良かったです。
- 教職以外のお仕事のお話も聞けてとても参考になりました。
- 先輩方のお話を聞くことが出来てとても自分のためになりました。大学四年間の中で色々と挑戦したいと思いました。
- ずっと聞きたかった教諭のリアルな話が聞けて良かったです。
- 実際に社会に出て働いている人の話を聞ける機会はなかなかないので、とても貴重だなと思いました。今日のお話を参考にして、自分の将来についてもっと考えていきたいです。
- これから進路を決定する際に、参考になるお話ばかりで参加して良かった。
- 卒業生がどんな進路に進んでいるか具体的なことがわかって不安が少しなくなりました。
- 先輩方の進路や職場でのお話はとても参考になりました。自分が今の立場や時間を有効に使えるということをもっと自覚して、未来に向けて熟考し、頑張っていきたいです。

【報告　学生委員3年　大石　琴】

学校インターンシップ

人間社会学部客員教授
西生田教職支援室長　東原信行

日本女子大学では平成二十三年度より、教育実習の前段階として、体験実践型授業「学校インターンシップ」を一・二年生に取り入れました。現在、実践校・園として川崎市多摩区内の私立幼稚園及び附属豊明幼稚園、川崎市多摩区内、狛江市内の公立小学校及び附属豊明小学校のご協力を得て実施しています。

一昨年度までは一・二年生一緒に八日間派遣していましたが、三年目の昨年度は、前期は学校インターンシップⅡとして二年生、後期は学校インターンシップⅠとして一年生と学年別に四日間派遣しました。

一年生に「学校インターンシップがあるので日本女子大に入りました」という学生がいました。本学入学の動機になったようです。「学校インターンシップを通じて、教師になるには大学で勉強を熱心に学ぶだけではいけないということを知りました」「実際に子どもたちと関わり合いながら、自分の目で教師の対応の仕方や子どもの様子を見ることで、今まで気づかなかった新しい発見や学びを得ることができました」とまとめていました。

二年生は「二回目となる学校インターンシップは、新たな知識を得るだけでなく、昨年学んだことを実践する機会にもなったので、非常に充実した時間になった」「一年生の時は、目の前の子どもの接し方をただただ見て学ぶことで精いっぱいだった。今年は毎回目標を少し高く設け、積極的に活動し学びとして吸収しようと心がけた」「今まで抽象的であった目標とする教師像がより鮮明になりました。教育実習に向けて、学んだことを生かしていきたい。」とまとめていました。中には「学校インターンシップⅡでは多くのことを学ぶことができました。この学校で引き続きボランティアとしてお世話になります」という学生もいました。

学生たちのインターンシップのまとめをみると、確かな学びと成長を確信できます。同時に、体験実践型授業「学校インターンシップ」の有効性も保証できます。

学校インターンシップで学んだこと

教育学科三年　高橋　紗友美

学校インターンシップⅡは、四回という少ない期間ではあったが、学校インターンシップⅠよりも充実した期間にしたいと思い、一回たりとも無駄にしないよう、毎回目標を掲げて臨んだ。四回のインターンシップを終えて、私の思い描く教師像が明確になった。

昨年のインターンシップでは、児童理解を中心に学んだが、今回は、表面的な児童理解ではなく、授業中、休み時間中など、さまざまな角度から児童理解をすることに努めた。また、児童に焦点をあてるだけではなく、教師の様子も今回の課題にした。児童がとった行動に対して、教師はどう対応しているのか、積極的に観て学んだ。

今回は、一年生に二回と、四年生・六年生に一回ずつ入った。一年生は、他の学年と比べると、学年や学級の中での自分の居場所が定まっていないためか、全体的に落ち着きがない印象を受けた。また、教師の指導の重要性を感じた。一年生は、「どうして？」と感じることが多く、私たちが普段考えないようなことも不思議に思う。その質問には、児童の視線にたち、その児童がなぜ「どうして？」と感じたのかという背景もしっかり考えながら答えるようにした。

四年生は皆、小学校に慣れ、学校生活を楽しんでいるように感じたとともに、一年生と四年生の成長の差を実感した。一年生は、教師の支援がとても大切だが、四年生は教師が児童に関わらなくても、児童自ら解決できるようになる。しかし、学校生活に慣れ、気が緩んでくる時期であるため、教師は児童の行動や言動を見逃さず、その都度、児童にとって何が大切かを考えて指導していた。そこで私は、児童と正面から向き合って指導することの大切さを感じた。

六年生の他の学年と大きく異なる点は、思いやりをもって生活できるようになるということである。学校という社会集団の中で、自分はどういう存在でいるべきか分かってくる。その中で、同じ六年生でも、皆お互いにそれぞれの個性を受け入れて学校生活を送っている姿は、とても印象的であった。「自分」を主張しつつ、相手のことも理解する、このことは、共同生活には欠かせない重要なことである。多くの教職員の方々が、児童の成長を見守り、教育してきたからこそ、思いやりのある児童に成長することができたのだろう。

四回のインターンシップを通して児童と関わることにより、教師と児童の信頼関係が成り立っていることがどれだけ重要なことか、改めて実感できた。教師が児童に注意するときは勿論、学級経営を円滑に行うためには、信頼関係が土台になければ、教師にとっても児童にとってもよい学級活動を行うことができない。学級には、約三〇人の児童がいて、一人の教師が全体をみることは難しいが、一回の瞬間を見逃さずに、児童を「みる」ことで、教師と児童との間に信頼関係を築くことができるのではないかと思う。

教師の役割の範囲は広い。その中でも忘れてはならないことは、児童が主体であるということである。一人ひとりの個性を大事にし、学校というひとつの社会集団の中で個性を伸ばし、それを生かしていけるかで、児童の学校生活への充実感はかわると思う。今、四回のインターンシップを終えて、一人ひとりの児童の実態を把握し、この瞬間、何をすることが一番その児童のためになるかを、瞬時に判断できる教師になりたいと思う。私の思い描く教師像に向けて、学校インターンシップⅠ・Ⅱで学んだことを活かし、教師の資質を高めていきたい。

【派遣校：川崎市立東生田小学校】

先輩にインタビュー

東京都内の小学校に勤務していらっしゃる、下里鮎乃さん（52回生）にメールにてインタビューをさせて頂きました。

1 なぜ教師になろうと思ったのですか。また教師を目指すきっかけとなった先生はいらっしゃいますか。

▼小学校高学年くらいまでは、看護師になるのが夢でした。でも、6年生のときの担任の先生の影響と、1年生のお世話をきっかけに小学校教師になりたいと思いました。当時の担任の先生は、どんなときもクラスのことを好きでいてくれ、本気で向きあってくれました。また6年生で恒例の1年生のお世話をする機会をきっかけに自分は小さい子のお世話をすることが好きだと気付き、小学校教師を目指し、なりたいというより、なるもんだという思いで進学などは自然に決まっていきました。

2 実際に教師になって、想像していたものとの違いなどはありますか。

▼事務的仕事の多さです。実務の中には子どもたちのことだけでなく、そのバックにいらっしゃる保護者との連携、組織として分担された仕事があります。思っていたよりハードでした。

3 子どもたちとコミュニケーションを取る上で、気をつけていることなどはありますか。

▼子供たちの目線になることです。また、それぞれの家庭環境などを考慮して関わり、一人一人の良さを見落とさないように気をつけています。また指導するときには、子供たちの言葉に共感しながら自分の伝えたいことを伝えていくようにしています。あとは、子供が伸びるチャンスを見逃さないように気をつけています。

4 下里先生の理想とする学級とはどのような学級ですか。

▼笑いが絶えない学級です。同年代が大勢で生活できる場所って学校しかないんです。だから、子供たちにはそこでしか得られないことをたくさん得てほしいなと願っています。そのために、全員で目標をもち、それを達成するためにどうしたら良いかみんなで話し合う機会をたくさん作っています。

5 最後に、教師を目指す学生に、メッセージやアドバイス等ありましたらお願いします。

▼気持ちを込めて指導すれば、必ず子供たちに通じ、成長し、絆ができてくることがこの仕事の、ほかの仕事にはない魅力だと思います。子供たちと一緒にいることで自分も成長していけます。とても、魅力的でやりがいのある仕事です。学生のときに、たくさんいろいろな経験をすることで、子供たちに伝えられることも増えるので、学生のうちにいろいろな人々に会って視野を広げて欲しいと思います。今は、「教育技術」という教育誌の執筆も毎月やらせていただき、もう2年目になります。そこで人脈が生まれたり視野が広がったりしています。自分におりてくるチャンスも最大限に生かして、日本女子大を卒業した誇りをもちながら仕事をがんばっているので、みなさんもがんばってください！

感想

今回のインタビューを通じて、教師は、理想と現実の差はあるものの、その大変さの中にやりがいを見つけ、自分の成長に繋げることができる職業だということを知りました。下里さんのような教師になれるように、これから4年間学んでいきたいと思います。（梶谷絢）

【学生委員1年　梶谷絢・田邉衣純】

懇話会のお知らせ

「私の歩んできた道」

～元祖『金八先生』が語る、教育のこと、宮沢賢治のこと～

講師　三上　満氏
日時　二〇一四年十一月二十九日（土）
　　午後一時三〇分～三時三〇分
会場　日本女子大学目白キャンパス
　　百年館306・307教室
会費　無料
申し込み　同封のハガキまたは直接会場へ
問合せ先　赤塚　国子（文化部24回生）
　　☎0466・34・9177

「満（まん）ちゃん」と慕われた教師時代の数々のできごとや思い、今伝えたいこと。

そして長年研究を続けてきた宮沢賢治に込める思いを賢治の妹トシの母校、日本女子大で語ります。

三上　満（みつる）氏プロフィール

一九三二年東京生まれ。一九五五年東京大学教育学部卒業。中学校教諭を経て、都教組委員長、全労連委員長、看護専門学校長など歴任。現在は、子どもの権利・教育文化センター代表委員などを務めている。

また宮澤賢治の研究者でもあり、二〇〇三年には『明日への銀河鉄道―わが心の宮沢賢治』（新日本出版）で、第一八回岩手日報文学賞・賢治賞を受賞。

中学校の教師時代は、子どもたちから「満（まん）さん、満（まん）ちゃん」と慕われ、その愛とロマンにあふれる人生は『ドラマ金八先生（小山内美江子脚本）』のモデルの一人になった。

「子どもたちによろこびのある未来へ向かう力を育てるには、よろこびのある〝いま〟を体験させねばなりません」など私たちを心から励ましてくれる貴重なメッセージを発信し続けている。

平成２６年度　教育学科の会

（数字）は回生

◆会　　長　岩木秀夫（研究室）
◆副　会　長　浦野敬子（25）、大森桃子（26）　◆監　事　尾方一美（18）、渡邊昌江（18）
◇研究室委員会　瀬尾美紀子（研究室）
◇回生委員会　委員長　萩野厚美（25）　副委員長　藤田良子（25）近藤尚子（34）

【各部会】

※：部長、無印：副部長

総務	会計	会員	庶務	文化	会報編集
※渡邊 明美（27）	※相沢 喜代美（26）	※松尾 里羽子（31）	※杉山 京子（27）	※赤塚 国子（24）	※石井 美奈子（38）
	小菅 直美（26）	青木 紀子（31）		渡部 泉（24）	大熊 智恵美（34）

◇学生委員会

学部１年	油　有香理、梶谷　絢、田邉　衣純、村越　綾乃
学部２年	今村　夏海、小池　真結、林　麗未、長谷川　真由
学部３年	東條　栞、斎藤　果織、大石　琴、中原　徳子、岡村　鈴奈、畑　美月、吉田　美樹、中西　景子、秋山　光、中達　麻衣子
学部４年	岡崎　明日香、北村　花菜恵、清水　麻希、菅井　祥子、関口　舞、佐藤　みずき、高野　友里絵、中瀬　美沙、八束　真美子、福田　紗祐美、斎藤　史恵、高森　詩文、石川　友季
大学院	芦野　恵理、小泉　桃子

日本女子大学教育学科の会
平成25年度決算書（平成25年5月1日～平成26年4月30日）
及び 平成26年度予算書

【収入の部】

項　目	平成25年度			平成26年度
	予算	決算	差額	予算(案)
入会金	110,000	102,000	8,000	110,000
会費	2,500,000	2,310,000	190,000	2,300,000
人間研究　助成金（＊1）	200,000	178,500	21,500	180,000
受取利息	1,500	617	883	600
その他	0	0	0	0
収入の部合計	2,811,500	2,591,117	220,383	2,590,600

（＊1）学科刊行物印刷費

【支出の部】

項　目	平成25年度			平成26年度
	予算	決算	差額	予算(案)
奨励金	120,000	120,000	0	0
印刷費				
人間研究	380,000	357,000	23,000	360,000
会報	360,000	366,743	-6,743	360,000
名簿	0	10,290	-10,290	10,000
名簿データ管理料	150,000	126,115	23,885	150,000
行事運営費				
大会	140,000	86,814	53,186	140,000
懇話会	170,000	124,195	45,805	170,000
ホームカミングデー	80,000	78,495	1,505	80,000
理事会等運営費（会議費）	70,000	91,507	-21,507	90,000
活動費				
研究室委員会	220,000	220,000	0	220,000
学生委員会	50,000	9,660	40,340	50,000
回生委員会	180,000	111,937	68,063	170,000
総務部	50,000	31,850	18,150	50,000
会計部	25,000	33,624	-8,624	30,000
会員部	10,000	13,200	-3,200	14,000
庶務部	35,000	26,048	8,952	38,000
文化部	20,000	18,020	1,980	20,000
会報編集部	100,000	73,600	26,400	100,000
研究誌編集部	40,000	40,000	0	40,000
研究室経費	40,000	40,000	0	40,000
送料・通信費	800,000	827,284	-27,284	830,000
事務・消耗品費	25,000	29,537	-4,537	25,000
慶弔費	10,000	0	10,000	10,000
雑費	10,000	20,375	-10,375	20,000
ホームページ作成　委託費	500,000	370,860	129,140	100,000
桃柿育英会（震災義援金）	20,000	20,000	0	20,000
支出の部合計	3,605,000	3,247,154	357,846	3,137,000

⇓

【平成25年度 収支差額】	-656,037
【前年度からの繰越金】	8,311,454
【次年度への繰越金】	7,655,417

上記のとおり報告いたします。

平成26年5月24日

教育学科の会　会長　澤本 和子
会計　相沢 喜代美

上記について慎重に監査した結果、いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事　三浦 栄子
監事　藤塚 和子

ハガキコーナー

◆元気で孫のところへせっせと通っています。孫のパワーで気分は若くいられます。体はだめですが、けっこう忙しいです。

18回生　（東京）

◆砂丘湖の「佐潟」湿地を守るボランティアに参加しました。植物・鳥類の自然観察会を中心に、交流・学習・普及・啓発・WiseUse（賢明な利用）を目指しています。今はラムサール条約湿地は日本で37か所（2011・8）あります。運動の目的が年代を越えて学びあうのも楽しみです。

18回生　植木　和美（新潟）

◆4月5日、昨年の懇話会「朝日館女将」の住む福島県新地町の仮設住宅へ「※駄菓子屋それいゆ」出店のお手伝いに行き、被災地を巡りました。がれきはかたづけられましたが、荒涼とした空き地に言葉を失いました。是非来て、現実を見てくださいとのこと。報道されない事実はまだまだあり、もっと知らなくてはと思いました。観光も復興支援・・・また来ますと約束しました。　※くじを引いて駄菓子を当てる。この他ミサンガ作り、白い袋にお絵かきも。

24回生　渡部　泉（東京）

◆「葦」64号を拝見し、お若い方もベテランの方もご自分の仕事に誇りを持ち、希望を持って取り組んでいらっしゃる記事に感銘を受けました。みなさんのご活躍が楽しみです。

24回生　（神奈川）

◆今年定年退職をしましたが、フルタイムの再任用で引き続き同じ職場で働いています。三人の子育てをしながら続けてこられたのは家族（両親も含めて）と私の健康のお陰かなとありがたく思います。子育ても仕事も楽しくでき、上をみればきりがないけど両方とも達成感を得られました。どちらかがうまくいかないと両方うまくいかないような気がします。働ける幸せをかみしめています。

26回生　（東京）

◆人生を旅にたとえるなら「還暦」という大きな駅をなんとか無事に通過してしばし心静かに休憩しているような感じです。学生時代にもっと勉強しておけばよかったのにと卒業後に悔やまれましたが再度入学することは肉体的にも経済的にも無理がありますので「通信教育」を通してもう一度学生になってみようかしらと思っております。

26回生　金島　富士恵（千葉）

◆大学卒業後ずっと東京都の教員（小学校）をしています。大田区、品川区、台東区、葛飾区と四つの区の七つの小学校で働きました。今、自宅より徒歩十分の学校です。残り四年間ここでしっかり勤め上げたいと思っています。三回の産休・育休以外は病気をすることもなく健康でいられたことが、今まで頑張ってきた源なのでしょうね。

30回生　竹市　基美与（東京）

◆さいたま市にある小さな幼稚園の園長をしております。今となっては珍しく、バスなし給食なしで遊びたっぷりという園です。子ども時代を子どもらしく・・をモットーに幼児期に本当に大切なことは何かを忘れないようにがんばっております。子どもたちにパワーをわけてもらう日々です。

31回生　槇谷　厚子（埼玉）

◆卒業三十周年を機に年に数回、明桂寮の同期が会えるようになりました。先日も七名集まり、時間を忘れておしゃべり。あの頃の先輩方にもお会いしたいね、とも。懐かしい話から「今」まで話は尽きません。いつも企画、予約してくれる友人二人に感謝です。

31回生　松尾　理羽子（千葉）

◆今年の四月から、勤務している大学附属の特別支援学校長に就任しました。知的障害のある小・中・高校生の子どもたちが学んでいる学校です。先生方の丁寧で確実な指導、子どもたちの明るさ・がんばり・成長、保護者の方々の熱心さや深い愛情などから、日々たくさんのことを教えていただいています。

33回生　尾崎　啓子（埼玉）

◆同じ市内ですが、転居いたしました。いままでも大阪、東京等転居してきました。今回住所変更の届けをホームページでしてみました。「初」です！このお知らせは新住所に届きました。とっても簡単！24時間OK♪母校とつながっていたいものです。

33回生　竹内　さち子（栃木）

◆人間研究誌第50号に恩師・遠藤明子先生とともに掲載させていただき「一生の思い出」となりました。先生から電話をいただき二十年以上も前にタイムスリップしました！全く変わらぬ先生のお元気な御声が今もこれからも耳の底に残ると思います。先生と教育学科の会に感謝。

36回生　小野寺　典子（北海道）

◆皆様のご活躍の様子がわかる葦は私の楽しみです。女性が活き活きと社会に還元できるような、そんなシステムや考えを作れたらと思いながら仕事をしています。もう起業して二十年以上経過していますが、まだまだです。

37回生　斎藤　知野（東京）

◆この四月より保育学科の教員になりました。女子大で教えていただいたことを思いだしながら勤めています。

40回生　（神奈川）

◆会報誌の作成、送付など、いつもありがとうございます。卒業して六年、西生田に足を運ぶこともめっきり無くなってしまいましたが、お知らせを頂く度に懐かしく思うことが出来ております。今後ともよろしくお願い致します。

58回生　（東京）

◆日本女子大学を卒業して、一年が経ちました。この一年は毎日が必死でしたが、周りの人に恵まれて、なんとか乗り越えられました。四月からまた新たな出会いを大切に、子ども達と日々がんばっていきたいです。

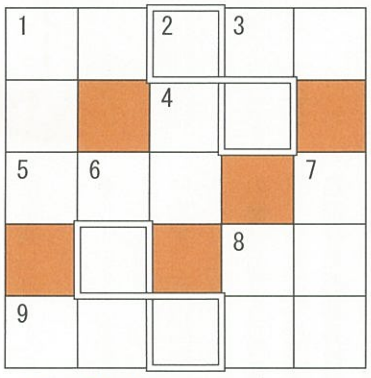
63回生　衛藤　美幸（兵庫）

お知らせ

今年度で退任される教育学科教授の、澤本和子先生と真橋美智子先生の最終講義は、卒業生の方も聴講することができます。日時は決定次第、教育学科の会ホームページに掲載いたしますので、ご確認ください。

クロスワードパズル

二重線枠の文字を組み合わせてできるカタカナ４文字の言葉は？



ヒント!

今回は食欲の秋にちなみ、たくさん食べ物が登場します。
美味しいものには誰もが・・・・！
そして「チーズ」でも、「ウイスキー」でも・・・・！

締め切り 10月10日（金）必着

＜ヨコのカギ＞

1．今年世界文化遺産に登録された富岡製糸場があるのは？
4．桜田門外の変で暗殺されたのは○○大老。
5．山芋の葉の付け根にできる球芽。秋が旬です。
8．結構いろいろな意味がありますが、果物は漢字一文字です。
9．アレルギー反応の原因となる抗原物質のこと。

＜タテのカギ＞

1．誰もがたくさん作品を知っている○○○童話。
2．犬のおまわりさんの歌い出しは「○○○の○○○の」。
3．億の次は兆、兆の次は？
6．白いんげん豆と肉を煮込む、フランス南西部の地方料理。
7．○○○とは、家畜として飼育される鳥のこと。
8．「三尺去って師の○○を踏まず」と言われてきました。

◆解答を同封のハガキに書いて送ってください
正解者10名に図書カードを贈呈します。
（正解者多数の場合は抽選）

◆前回の正解は**＜がんぐ（玩具）＞**　でした。
たくさんのご応募ありがとうございました。

［当選者］（敬称略・数字は回生）

中村淑子（２）　小林都貴子（12）　芳野紀子（15）　植木和美（18）
早船智美（26）　槇谷厚子（31）　神澤俊江（37）　斎藤知野（37）
石田純子（42）　衛藤美幸（63）

スクールバス日女祭特別ダイヤ

（　）は主に教職員および実行委員用　〈8月1日時点〉

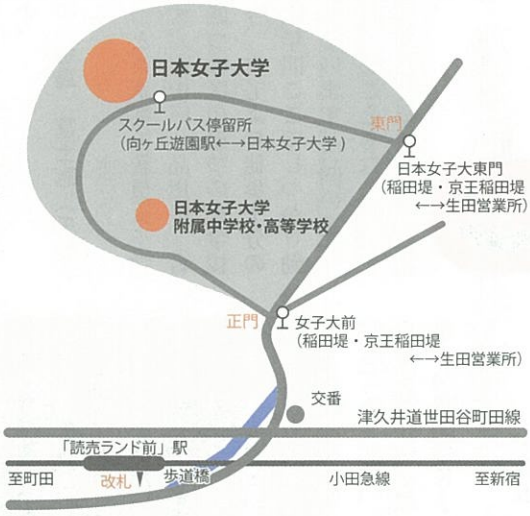
時	向ヶ丘遊園駅発	日本女子大学発
8	(30)	
9	(00)　20　40	(10)　(30)　(50)
10	00　20　40	10　30　50
11	00　20　40	10　30　50
12	00　20　40	10　30　50
13	00　20　40	10　30　50
14	00　20　40	10　30　50
15	00　20　(40)	10　30　50
16	(00)　(20)　(40)	10　30　50
17	(00)	10　30

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。

交通のご案内

◆小田急線　読売ランド前駅下車　徒歩15分
・新宿から急行25分
（向ヶ丘遊園乗り換え）
・新宿から準急30分

◆小田急線　向ヶ丘遊園駅下車
北口3番停留所よりスクールバス
（所要時間約15分・無料）



●京王線
『京王稲田堤』駅下車／
小田急バス（生田営業所行）約12分／
日本女子大東門または女子大前下車

● JR南武線
『稲田堤』駅下車／
小田急バス（生田営業所行）約12分／
日本女子大東門または女子大前下車

編集後記

■「葦」発送にかかるコストや個人情報保護の観点から考えると、紙ベースの「葦」も後何年でしょうか？名簿流失のニュースを耳にしながら思うこの頃です。　**高橋　藤枝（23回生）**

■自宅のPCが壊れました。iPadを買ってからは、PCはほとんど「葦」編集の時だけになりました。でも新しい職場では、ほぼ一日中PCの前に座りっぱなし。そのためか体重が右肩上がりに！なんとかしなくては！　**大熊　智恵美（34回生）**

■「葦」の編集後記に私の名前を見つけてくれた友人達から激励のメールや、年賀状をいただき感激です。見てくださってうれしいです。ぜひお葉書や講演参加もお待ちしております。　**星野　ひろみ（37回生）**

■学生時代にとても大きく感じていた、目白キャンパスの成瀬講堂が、隣に建った百年館のせいか、以前より小さく見えます。古いものと新しいもの、うまく融合してさらに進化、深化していくことを願っています。　**石井　美奈子（38回生）**

年号表記につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

「葦」を編集してから皆様のお手元に届くまで一ヶ月以上ありますので、日女祭などの最新情報は大学のホームページでご確認ください。